

令和 5 年 6 月 29 日現在

機関番号：22302

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2022

課題番号：17K02976

研究課題名(和文) Development of the English Nominal Domain in Adult Second Language

研究課題名(英文) Development of the English Nominal Domain in Adult Second Language

研究代表者

Snape Neal (Snape, Neal)

群馬県立女子大学・国際コミュニケーション学部・教授

研究者番号：10463720

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：英語の定冠詞の意味と可算名詞・不可算名詞の区別の習得に関する調査を実施した。調査対象は英語を習得する中上級レベルの日本語母語話者とスペイン語母語話者である。課題は以下の3つである。(i)学習者の母語である日本語とスペイン語の名詞領域が、L2文法の定冠詞の使用と可算・不可算の区別にどの程度影響するか(ii)定冠詞と可算・不可算の区別の習得に特定の発達段階があるのか(iii)日本語母語話者とスペイン語母語話者の英語の定冠詞の使用と可算・不可算の区別において、最終到達点はどのようなものか調査結果から、L2学習者の定冠詞の使用と可算・不可算名詞の区別に学習者のL1と習熟度が関与していることを示された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

第二言語習得においては、学習者の母語が重要な役割を果たすと考えられている。本研究は、日本語母語話者とスペイン語母語話者を対象に英語の定冠詞と可算名詞・不可算名詞の区別の習得を調査した。スペイン語は定冠詞や可算・不可算の区別のある言語だが、日本語はどちらも存在しない言語である。スペイン語母語話者は母語からの転移により、英語の冠詞や可算名詞等の習得がより容易であると予測されたが、この予測は支持されず、母語からの転移を強く示すものではなかった。この結果は、冠詞や名詞の種類に関する習得に関して、母語の転移が期待できる場合であっても、教室での指導が学習者の理解を深めるのに役立つ可能性があることを示唆している。

研究成果の概要(英文)：The project we carried out was a cross-sectional investigation of definite article meanings and the count-mass distinction, testing L1-Japanese and L1-Spanish L2-English learners at different proficiency levels (intermediate and upper-intermediate) to examine the following three issues: (i) to what extent the nominal domain of learners' L1, Japanese and Spanish, influences the definite article use and count-mass distinction in L2 English grammars. (ii) whether or not there are particular developmental stages for the definite article and count-mass distinction. (iii) what the ultimate attainment of English definite article use and count-mass distinction for L1-Japanese and L1-Spanish L2-English learners looks like. The results show that the L1 and proficiency play a role in how well L2 learners perform on a range of different tasks.

研究分野：adult second language acquisition

キーワード：definite article count nouns mass nouns flexible nouns Japanese Spanish

1. 研究開始当初の背景

定冠詞の L2 習得に関する先行研究では、異なる言語を母語とする学習者を対象に調査している (Chrabaszcz & Jiang, 2014; Cho, 2022; Ionin, Ko, & Wexler, 2004; Ionin et al., 2011; Ionin et al., 2012; Snape, 2006, 2013; Trenkic, 2008; Trenkic, Mirkovic & Altmann, 2014, 他)。本研究においても、習熟度と母語の異なる 2 つの学習者グループ、L1-日本語学習者と L1-スペイン語学習者に注目し、定冠詞の意味の習得について調査を行った。調査には、Cho (2017) のタスクを使用した。

本研究では、表 1 に示す英語の定冠詞 *the* の 4 つの意味について調査した。日本語では指示詞「その」が 4 つのうち 3 つのタイプで使用されることがあるが、日本語には *the* に相当する定冠詞は存在しない。一方、スペイン語の定冠詞 *el/la* は英語の *the* と同様に 4 つのタイプで使用される。

表 1. 定冠詞の種類

	[+definite, +anaphoric]			[+definite, -anaphoric]
	Direct Anaphoric	Taxonomic Anaphoric	Anaphoric Bridging	Non-Anaphoric Bridging
英語	the	the	the	the
日本語	その	その	その	なし(裸名詞)
スペイン語	el/la (the)	el/la	el/la	el/la

英語の定冠詞の 4 つの意味について、以下(1)-(4)に例を示す。

(1) Direct Anaphoric (直接的照応)

Harold got a microwave for Christmas. He put the microwave next to his new toaster.

(2) Taxonomic Anaphoric (分類的照応)

Howard wrote a book. He sent the novel to three publishers already.

(3) Anaphoric Bridging (橋渡しの照応)

Henry sat down too quickly. He knocked the chair over onto the floor.

(4) Non-Anaphoric Bridging (橋渡しの非照応)

Andrea finds her kitchen useful. She loves the microwave with many functions.

可算名詞・不可算名詞の区別も冠詞の習得と同様に、日本語を母語とする学習者にとって習得が難しいとされている文法要素である。英語の不定冠詞 *a(n)* と複数形の *-s* は、可算名詞に使用される。一方、日本語には可算名詞と不可算名詞の区別がなく、義務的な複数形もない。先行研究においても、日本語を母語とする英語学習者にとって、英語の可算、不可算の区別が難しいことが報告されている (Snape, 2008; Inagaki, 2014; Umeda, 2016; Shirahata, 2016, など)。一方、スペイン語は複数形 *-s* などの数を表す形態素が使用され、その点において英語と類似していると言える。表 2 に本研究で使用された名詞のタイプを示す。名詞タイプは 4 つで、可算名詞 (Count)、物体を指す不可算名詞 (Object mass)、物質を指す不可算名詞 (Substance mass)、そして可算と不可算のどちらでも使用ができる Flexible タイプである。

表 2. 調査で使用された可算名詞と不可算名詞

Flexible mass	Flexible count	Object	Substance	Count
cake	cakes	clothing	mustard	bottles
chocolate	chocolates	furniture	ketchup	biscuits
hair	hairs	jewelry	toothpaste	boxes
paper	papers	luggage	oil	chestnuts
potato	potatoes	cutlery	lotion	cups
spinach	spinaches	footwear	salt	dolls
stone	stones	mail	sugar	garlics
string	strings	stationary	chalk	shoes
pie	pies	timber	sand	spoons
ribbon	ribbons	cash	paint	hats
avocado	avocados	coal	pasta	keys
cabbage	cabbages	ice	rice	pots

2. 研究の目的

本研究の目的は、名詞領域における学習者の母語の影響と、その習得の発達段階を検証することである。日本語には英語のような冠詞システムはないが、指示詞「その」により英語の定冠詞の意味を限定的に表すことができる。スペイン語は、英語より複雑な冠詞システムを持っているが、冠詞があるという点において、英語に近い言語と言える。可算・不可算の区別においても、スペイン語には区別があるが日本語には区別がないため、スペイン語の方がより英語に近い言語と言える。したがって、英語を L2 として習得する日本語母語話者とスペイン語母語話者を比較した場合、スペイン語母語話者の方が名詞領域において、より英語母語話者に近い使用・区別をすることが予測される。一方、日本語母語話者は、名詞領域において、英語母語話者に近い使用・区別が可能なのか、そして可能だとすると、どの程度の習熟度で可能なのかについて検証する。

3. 研究の方法

(1) 手順

調査は日本語母語話者 45 人とスペイン語母語話者 52 人の英語中級学習者を対象に行った。タスクは、定冠詞の使用を調査するタスクを二つ (5-6)、可算・不可算名詞の区別を調査するタスクを二つ (7-8)、合計 4 つのタスクを実施した。

- (5) 容認度判断タスク (acceptability judgment task)
- (6) 自己ペース読文課題 (定冠詞) (self-paced reading task)
- (7) 量判断タスク (quantity judgment task)
- (8) 自己ペース読文課題 (可算・不可算) (self-paced reading task)

また、タスク前又はタスク後に、各被験者のこれまでの言語学習に関するアンケートと習熟度テストを実施した。

容認度判断タスクは、Google フォームを使用し実施した。自己ペース読文課題は、大学内の個室で Apple MacBook Pro ノートパソコンと Cedrus SuperLab ソフトウェアを用いて実施した。また、COVID-19 に関連した規制のため、参加者が大学に来ることができない時期には、PCIbex Farm サーバーを使用してオンライン版の自己ペース読文課題も実施した。

(2) 実験文

① 定冠詞

実験文の例を以下に提示する。(9)-(13)の文では、いずれも(a)の文が容認され、(b)の文が不適切である。被験者には、容認度判断タスクでは、各文の容認度を 1 (不適切) から 4 (適切) のスケールで判断していただいた。自己ペース読文課題では、各文を読んでいただき、適切な文と不適切な文の読み時間を記録、比較した。

- (9) Direct Anaphoric
- Harold got a microwave for Christmas. He put the microwave next to his new toaster.
 - Harold got a microwave for Christmas. He put a microwave next to his new toaster.
- (10) Taxonomic Anaphoric
- Howard wrote a book. He sent the novel to three publishers already.
 - Howard wrote a book. He sent a novel to three publishers already.
- (11) Anaphoric Bridging
- Henry sat down too quickly. He knocked the chair over onto the floor.
 - Henry sat down too quickly. He knocked a chair over onto the floor.
- (12) Non-Anaphoric Bridging
- Andrea finds her kitchen useful. She loves the microwave with many functions.
 - Andrea finds her kitchen useful. She loves a microwave with many functions.

②不可算名詞

自己ペース読文課題で使用された実験文の例を以下に提示する。(13)の可算名詞では、複数形-sが必要であり、-sが付与されていない(13b)は非文法的な文となる。(14)–(15)は不可算名詞のため、複数形-sが付与された(14b)と(15b)が非文法的な文となる。(16)は可算・不可算の区別に柔軟性があり、どちらでも使用ができる名詞である。したがって、(16a)と(16b)のどちらも文法的な文となる。自己ペース読文課題では、①の定冠詞の実験と同様に、被験者に各文を読んでいただき、その適切な文と不適切な文の読み時間を記録、比較した。

- (13) Count nouns
- For his job, John packed boxes for many hours.
 - For his job, John unpacked box for many hours.
- (14) Object mass nouns
- At the store, Mary bought furniture for her apartment.
 - At the store, Mary bought furnitures for her apartment.
- (15) Substance mass nouns
- While in Japan, George ate rice with each meal.
 - While in Japan, George ate rices with each meal.
- (16) Flexible nouns
- For his birthday, John served cakes to his invited guests.
 - For his birthday, John served cake to his invited guests.

4. 研究成果

本研究では4つのタスクを実施したが、日本語母語話者とスペイン語母語話者ともに英語母語話者と比較した際、定冠詞の使用や可算・不可算名詞の区別に違いが観察された。したがって、両学習者グループにとって、定冠詞の使用や可算・不可算名詞の区別が困難であることが示唆された。日本語母語話者においては、母語に冠詞システムや可算・不可算名詞の区別が存在しないため、中級習熟度においては習得が困難であることは予測が可能であった。しかし、スペイン語は名詞領域において英語と類似した特徴を持っているため、スペイン語母語話者の英語の名詞領域に関係する要素の習得は可能であることが予測されたが、本結果は意外なものであった。

上記の結果は本研究に参加してくださった被験者の習熟度のレベルが中級レベルに限られたこと、そしてスペイン語母語話者グループの被験者の方が日本語母語話者グループに比べ習熟度レベルが若干劣っていたことが一部の原因であったと考えられる。したがって、今後は学習者グループの習熟度レベルが均等になるようにすること、そして上級レベルの学習者、そして英語母語話者に近い習熟度に達している学習者等を対象にすることで、定冠詞および可算・不可算名詞の習得に関する発達段階や最終到達点について明らかにできるよう検証を続けたい。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計10件（うち査読付論文 5件 / うち国際共著 5件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 M. Umeda	4. 巻 42
2. 論文標題 Anaphors and intensifiers: A new perspective on L2 acquisition of English reflexives by Japanese-speaking learners	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Bulletin of Gunma Prefectural Women's University	6. 最初と最後の頁 27-43
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Snape, N.	4. 巻 18
2. 論文標題 The acquisition of articles: The story so far.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Special Issue of Second Language	6. 最初と最後の頁 7-24
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する
1. 著者名 Umeda, M., N. Snape, N. Yusa and J. Wiltshier	4. 巻 23
2. 論文標題 The long-term effect of explicit instruction on learners' knowledge on English articles	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Language Teaching Research	6. 最初と最後の頁 179-199
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する
1. 著者名 Mari Umeda, Neal Snape, Noriaki Yusa, John Wiltshier	4. 巻 23
2. 論文標題 The long-term effect of explicit instruction on learners' knowledge on English articles	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Language Teaching Research	6. 最初と最後の頁 179-199
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1177/1362168817739648	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Neal Snape, Mari Umeda	4. 巻 2:2
2. 論文標題 Addressing fluctuation in article choice by Japanese learners of L2 English through explicit instruction	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Instructed Second Language Acquisition	6. 最初と最後の頁 164-188
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1558/isla.35594	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Neal Snape, Hironobu Hosoi	4. 巻 8:2
2. 論文標題 Acquisition of scalar implicatures: Evidence from adult Japanese L2 learners of English	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Linguistic Approaches to Bilingualism	6. 最初と最後の頁 163-192
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1075/lab.8.2	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Neal Snape	4. 巻 2:1
2. 論文標題 Definite generic vs. definite unique in L2 acquisition	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Journal of the European Second Language	6. 最初と最後の頁 83-95
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.22599/jesla.46	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Neal Snape	4. 巻 8:2
2. 論文標題 Acquisition of scalar implicatures: Evidence from adult Japanese L2 learners of English.	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Linguistic Approaches to Bilingualism	6. 最初と最後の頁 163-192
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1075/lab.8.2	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Mari Umeda, Neal Snape, Noriaki Yusa, John Wiltshier	4. 巻 0
2. 論文標題 The long-term effect of explicit instruction on learners' knowledge on English articles.	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Language Teaching Research	6. 最初と最後の頁 0
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1177/1362168817739648	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Mari Umeda, Kazue Takeda, Makiko Hirakawa, Michiko Fukuda, Yahiro Hirakawa, John Matthews, Neal Snape	4. 巻 1:1
2. 論文標題 Acquiring antecedents for reflexives when both L1 and L2 permit long-distance binding.	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Journal of the European Second Language Association	6. 最初と最後の頁 38-48
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.22599/jesla.14	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

〔学会発表〕 計12件 (うち招待講演 4件 / うち国際学会 7件)

1. 発表者名 Neal Snape, Mari Umeda, Hironobu Hosoi
2. 発表標題 L2 acquisition of the English count-mass distinction by Japanese and Spanish speakers
3. 学会等名 Japanese Society for Language Sciences
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 N. Snape, M. Umeda and H. Hosoi
2. 発表標題 L1 Japanese and L1 Spanish L2 acquisition of English definite determiner phrases
3. 学会等名 Japan Second Language Association (国際学会)
4. 発表年 2020年

1 . 発表者名 M. Umeda, N. Snape, M. Hirakawa and J. Matthews
2 . 発表標題 An investigation of long-distance bias in real-time processing of Japanese reflexive zibun by native and non-native speakers
3 . 学会等名 GALA 2019 (国際学会)
4 . 発表年 2019年

1 . 発表者名 N. Snape, M. Hirakawa and J. Matthews
2 . 発表標題 Japanese and Thai L2 acquisition of English tense and aspect agreement
3 . 学会等名 GALA 2019 (国際学会)
4 . 発表年 2019年

1 . 発表者名 N. Snape, M. Hirakawa and J. Matthews
2 . 発表標題 Tense/aspect-agreement violations in Japanese L2 English
3 . 学会等名 ELSJ 2019 (国際学会)
4 . 発表年 2019年

1 . 発表者名 M. Umeda, N. Snape, M. Hirakawa and J. Matthews
2 . 発表標題 Native and non-native processing of Japanese reflexive zibun: An investigation of subject-orientation
3 . 学会等名 GASLA 2019 (国際学会)
4 . 発表年 2019年

1. 発表者名 Mari Umeda, Makiko Hirakawa, Neal Snape, John Matthews
2. 発表標題 Real-time processing of locality and animacy conditions for the Japanese reflexive zibun-zisin by native and non-native speakers
3. 学会等名 Symposium for Lydia White (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Neal Snape
2. 発表標題 The acquisition of articles (DPs): The story so far
3. 学会等名 J-SLA Autumn Seminar: The acquisition of articles (DPs) (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Neal Snape
2. 発表標題 Article choice by Japanese L2 learners: An intervention study.
3. 学会等名 University of Greenwich, UK (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kie Matsumoto and Neal Snape
2. 発表標題 Sensitivity to non-native contrasts in speech perception by child L2 learners of English
3. 学会等名 European Second Language Association (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Neal Snape
2. 発表標題 Heritage language reversal: The production of voice onset time (VOT) by Japanese returnees.
3. 学会等名 University of Reading, UK (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Neal Snape
2. 発表標題 Heritage language reversal: The production of voice onset time (VOT) and perception of dental fricatives by a Japanese returnee.
3. 学会等名 University of Essex, UK (招待講演)
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 Cristina Flores, Neal Snape	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Cambridge University Press	5. 総ページ数 21
3. 書名 Cambridge Handbook of Heritage Languages and Linguistics	

1. 著者名 N. Snape	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Springer	5. 総ページ数 23
3. 書名 Formal Linguistics and Language Education: New Empirical Perspectives	

1. 著者名 日本人英語学習者による冠詞の習得：概説	4. 発行年 2017年
2. 出版社 Kuroshi	5. 総ページ数 196
3. 書名 第二言語習得モノグラフシリーズ 1 名詞句と音声・音韻の習得	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	細井 洋伸 (Hosoi Hironobu) (40331946)	群馬県立女子大学・国際コミュニケーション学部・教授 (22302)	
研究分担者	梅田 真理 (Umeda Mari) (80620434)	群馬県立女子大学・国際コミュニケーション学部・准教授 (22302)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------